

## ⑥ 第6委員会

### 「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



それでは、第6委員会の意見を発表します。

第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、7月22日に特別消防隊しょうぼうの施設しせつ見学を行いました。そこで、わたし私たちは、大きな風を起こして煙をけむり飛ばすブローカー車や小さな音でも大きく聞こえる装置そうちを見ました。そして、技術ぎじゅつの進化はすごいと感じました。

また、2人で協力して3メートルの壁を越える障害突破訓練しょうがいとっばも見ました。そして、チームワークのよさや真剣しんけんに取り組む大切さを感じました。

その後、わたし私たちは、施設見学しせつをしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、何をすればいいかを考えました。

それでは、わたし私たちが考えたことを順番に発表します。

## ○子ども議員

僕が一番驚いたことは、年間の火災出動が558件もあったということです。とても多いと思いましたが、それでも減っているそうです。火災を起こさないためには、一人一人の防災意識を高めることが大切だと思いました。

また、地震や津波などから命を守る行動ができるようにするため、地域の防災訓練に積極的に参加するなど、日ごろから地域の人とコミュニケーションをとって、災害に備えた生活をすることも必要だと思いました。

## ○子ども議員

僕は、7月22日に特別消防隊に施設見学に行きました。特別消防隊員の皆さんは、日本全国の人たちが安心して暮らせるまちづくりのために、日々災害を防止するためにアイデアを考えています。でも、特別消防隊の皆さんでも限度があります。

そこで、僕が考えた意見は、市民の皆さんにも協力してもらい、アイデアを考えてもらうことです。そうすれば、多くの意見が集まって、より「安全で安心してくらすことができるまち」に一步近づくとおもいます。これで僕の発表を終わります。

## ○子ども議員

私は、ハイパーレスキュー隊と呼ばれている特別消防隊で訓練と特殊な消防車の見学、火災を想定した煙の中から人を救出する体験をしました。

最新の機械や消防車を常備し、練習といっても一刻を争う場面で活動できるような過酷な訓練をしていることがわかりました。私たち名古屋市民の万が一のために、一生懸命大変な訓練をしていることは、とても安心ですが、災害を起こさないように私たちも安全を心がけながら暮らしていくこともとても大切だと思いました。

## ○子ども議員

僕は、特別消防隊を見学して思ったことは、日ごろから災害に対する備えをしたり、訓練をすることは大切なことだと思いました。

なので、できれば半年に一回、大規模災害の起きたときの行動や備えるものなどを確認する日を、名古屋市または1区内でつくったほうがいいと思います。本当に一日避難場所において、避難で何か必要かや避難場所で困ったことは何かなどを考え、大規模災害が起きたときのヒントとして、このようなことをして家族と話し合ったりするといいと思いました。

## ○子ども議員

私は、今回の施設見学で特別消防隊へ行き、消防隊の人たちは毎日訓練をし、いつでも人を助けられるように頑張っているということを知り、それがとても印象に残りました。特別消防隊の人たちは、年間火災が558件、救助が1059件、救急が11万9996件と、とても頑張っています。そして、この数を減らせるように努力しています。でも、幾ら消防隊の人たちが頑張っても、私たち市民が努力しなければ無理です。なので、お互いに呼びかけ、注意し合い、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にしたいです。

## ○子ども議員

施設見学を通じて特別消防隊の人たちは、毎日何十キロもの荷物を背負って全力で走ったり、ロープを伝って登るといような厳しい訓練をしています。何より行動が早かったです。この素早い動きと体力、正しい判断力が人命を救うためにとても役立つことがわかりました。

災害はいつ起きるのかわかりません。だから、あらゆることを想定して備えることが大事だということ、訓練の様子を見て感じました。私は今回の施設見学で見たこと、聞いたことを私たち小学生に伝え、備える大切さを広めていきたいと思いました。

## ○子ども議員

火事の件数が1年間で500件を超えています。その原因で最も多かったのはたばこです。たばこを吸う人は灰皿を携帯するというエチケットは知られています。それと同時に、灰皿の下に防火シートを敷く呼びかけも有効的だと思います。コンロは吹きこぼれによる事故が多いので、コンロの販売基準を強化して、自動的に消す機能を義務づけたりして、コンロの火事を減らして、火事のない安全なまちにしたいと思っています。

## ○子ども議員

今回、特別消防隊を見学できてたくさんの方のことを学びました。私が地域で参加した防災訓練でも、今回の見学からも、自分の目で見て体験することは、防災や避難のことについて真剣に考え、災害時に行動できる力になると思います。生死の境目で助けを待つ人は、1秒でも早くと救助を待っているはずなので、緊急車両が通れなくなる違法駐車や、狭い道に勝手に車をとめることがなくなってほしいと思います。消防隊の方たちが毎日命がけで仕事をしてくださっていることを、小学校でももっとお話を聞ける機会があるといいと思います。

## ○子ども議員

今、名古屋市は陸前高田市の復興を支援しています。私は昨年陸前高田へ行き、津波や地震災害の恐ろしさを感じました。この名古屋市も将来大地震が来ることが予想されています。

そうした災害による被害を減らすために、特別消防隊では防災器具や装置の点検、広報活動をしています。また、ハイパーレスキュー隊は、国内だけでなく海外の災害にも対応できるように、日々厳しい訓練をしています。私たちも防災意識を高めるために、避難場所の確認や食料の備蓄など、できることから始めていく必要があります。

## ○子ども議員

ハイパーレスキュー隊の施設見学へ行き、防災は大変だということを知り、防災が大切だということを知りました。

煙体験、防災体験をしたりして、地震とか災害のときに家族と離れてしまったら、家族のいるところへ連れて行かせてくれるシステムがあり、地震で揺れない建物があって、地震の堤防をもっと丈夫くしたほうがいいと思いました。

## ○子ども議員

私は、特別消防隊第一方面隊の施設見学に行きました。立派な消防車やブローカー車がありました。消防隊員の方々が、毎日大変な訓練をしていることも見学しました。消防隊は十分努力していると思いました。

火事を本当に減らすことができるのは、私たち市民です。でも、その方法はよくわからない。だから、消防隊から動画で教えてもらうことを考えました。火事の防ぎ方、逃げ方、日ごろから気をつけておくこと、災害のことをいつでもみんなが見られる環境にして、市民も努力できる環境を整備することを提案します。

私たち第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第6委員会の発表を終わります。



## ■ 佐藤都市消防委員長の答弁

第6委員会の委員の皆さん、本当にお疲れさまでした。限られた時間の中で、よく本当にここまで意見を取りまとめてきょうの本番も堂々と発表ができました。本当にうれしく思います。ありがとうございました。



第6委員会では、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」をテーマとして、特別消防隊へ施設見学へ行き、人の命を救うため、さまざまな装備や装置の内容、訓練の方法などについて学んでまいりました。大きな風で煙を飛ばすブローカー車、煙の中でも人を見つけることのできる装置、瓦れきの中で助けを求める人を見つけるための装置、なかなか普通の人では見ることはできないものをたくさん見て体験していただけたのではないかなというふうに思います。

また、見学中、実際の消防車が出動する様子や、さまざまな障害を乗り越えていく訓練の様子も見ることができました。隊員さんがどのようにして皆さんの安全を守っているのかということについても、学ぶよいきっかけになったのではないかなというふうにも思っております。

きょうの皆さんの意見発表を聞いていると、施設見学で学んだこと、体験したことをしっかりと理解して、自分なりの意見を一生懸命



命めいまどめることができているなど改めて感心しました。名古屋の、  
また加藤かとう議長からもありましたけれども、日本の宝たからである子どもた  
ちのはつらつとした活躍かつやくを見ることができ、名古屋の未来は明るい  
と改めて感じました。努力はうそをつきません。これからも伸びの伸びの  
と将来しょうらいの夢ゆめに向かって堂々と羽ばたいていってください。

子ども委員長さん、そして子ども副委員長さんを初めとした11  
名の委員みなの皆さんには、きょうまでの間、たくさん考えて、たくさ  
ん質問しつもんをしていただき、活発な議論ぎろんを行っていただきました。

そして今、皆みなさんには発表の中でたくさんの提案ていあんを出していただ  
きました。きょう皆みなさんから発表していただいた意見ていあんや提案などは、  
しっかり受けとめて、私わたしたち議員も名古屋市が安全で安心なまちと  
なるよう、最大限努力さいだいげんすることを約束させてもらいます。

最後になりますけれども、御協力ごいただきました浅井副委員長、  
また余語副委員長や教育委員会の梶田かじた先生、事務局じむや関係者みなの皆さ  
んに感謝かんしゃ申し上げまして、答弁とうべんとさせていただきます。ありがとう  
ございました。

